

World Navi

ワールドナビ Vol. 23
2017 SPRING

Navi
対談

世界94カ国に広まる空手の精神性
最強の武道空手こそが最も優しい人を創る

NPO法人 全世界空手道連盟 新極真会 代表理事

公益社団法人 国際経済交流協会 会長

緑 健児 × 米田 建三

特集 「北陸の奇跡」から考える、新幹線整備の現在と未来
木下 尚哉(ジャーナリスト)

Navi特別インタビュー 新・駐日ハンガリー大使は有能なビジネスマン
——日本との更なる協力関係を構築したい

駐日ハンガリー大使

パラノビチ・ノルバート



Navi 対談

聞き手

公益社団法人 国際経済交流協会

会長 米田 建三

NPO法人 全世界空手道連盟 新極真会

代表理事

緑 健児

世界94カ国に広がる空手の精神性 最強の武道空手こそが最も優しい人を創る

10万人の会員が一つの「家族」に

米田 この対談でスポーツ界の有力な方とお話するのは初めてなので、楽しみにしていました。新極真会は非常に大きな団体で、世界中に広がりを見せているようですが、世界でお弟子さんといいますが、会員の方はどれぐらいいらっしゃるんですか。

緑 今、世界94カ国に支部がありまして、日本と世界を併せると約10万人の会員がいます。

年齢層は子どもから80歳ぐらいの方までいて、老若男女すべてが空手道で頑張ってくれています。

米田 すごくですね。ヨーロッパにもたくさん道場があるとお聞きしました。特にハンガリーでは非常に強い組織をお持ちだとか。私共の協会も、ハンガリーと縁が深くて、ハンガリー大使館やハンガリーの商務のサポートをしているんです。

緑 先日デンマークでヨーロッパ大会が開かれましたが、ハンガリーの選手はやはり強くて、女子は（階級別で）何人か優勝しています。男子も結構強いんですが、政府と密接になって軍隊でも空手を教えている関係もあって、ハンガリーで空手は非常に盛んです。

米田 政府が軍の格闘技として、空手を大きな軸にしているんですね。もちろん民間人の会員も多いでしょうし、ハンガリーの選手が世界チャンピオンになっていると聞くと、私にとって近い感じがします。ところでヨーロッパで非常に空手が盛んで支部が多いのは、どういう理由があるんでしょうか。

緑 まず大山倍達総裁（極真空手の創始者）の元にヨーロッパから弟子が集まって、日本に来て空手の修行をして、自国に帰って広めていったんです。ハンガリーでいうとフルコ・カルマン師範、スウェーデンのハワード・コリンズ師範といった方々です。日本の本部で本当に厳しい修行をして、文化が違う中でも大変な思いをしながら頑張つて、空手の魅力に取りつかれていったんです。

米田 世界で空手を勉強している人たちはどういう思いでやっているんでしょうか。ハンガリーのように軍人に身に付けさせたいという理由もあるでしょうが、一般の方々はどうでしょう。

緑 旧ソ連、東ヨーロッパなどは治安が悪いので、自分の身を守るためにという人が多かったですね。そして空手がすごく広まって

いく中で、世界大会などを通して皆が同じ目標を持って、互いに切磋琢磨し合って、そこで友情が芽生える。私たち新極真会は、一つ大きなファミリーだという意識を持っていきます。その中で日本の文化、例えば相手への尊敬の念だとか、先輩後輩のきちんとした縦の関係とか、強くなればなるほど人に優しくなれるという精神性といったものが、世界中で根付いていると思います。

米田 それは素晴らしいことですね。強さへの憧れだけじゃなくて、日本武道特有の精神性に対する理解が世界に広まっている。緑 僕らも非常にやりがいがありますよ。日本人をすぐくリスベクトしていただいているんです。

最初の目的は、単に喧嘩に強くならなかったから

米田 ところで緑代表は奄美大島のご出身ですが、奄美には何歳までおられたんですか。

緑 15歳までですね。奄美の中学を出て、極真空手をやりたくて東京に出てきて、高校に行きつつ道場に通っていたんです。

米田 そのきっかけは何だったのですか。

た一生懸命練習して試合に出たのですが、当時スイスのチャンピオンだったアンディ・フグ選手と決勝で闘って負けて、本当に悔しい思いをしたんです。
米田 そこでもう一度やろうと思われたんですか。
緑 ええ、いつもどこかで諦めてしまう自分がいて、この気持ちを乗り越えなければ、これからの人生においても必ず諦めてしまうだろうという思いが自分の中にありました。それを克服するためには練習し



緑 『空手バカ一代』（梶原一騎原作）という漫画を読んだのが始まりです。奄美で道着を購入して、通信教育で空手を学んでいたんですが、それでもやっぱり道場に通いたくて。空手をやりたいからといって親は納得してくれませんが、大学進学のために東京の高校へ行きたいという話をして、親を説得したんです。

始めて、多少やんちゃなこともしましたよ。僕らの時代は駅前にいろんな強者がいたので、もっと強くなりたかったんです。けど、やはり大会に出るようになってからは違う目標ができました。

米田 それで極真空手をおやりになった。当時は国際空手道連盟極真会というのが正式名称ですね。大山総裁のところに入門したんですか。
緑 大山総裁の本部ではなくて支部の方に行つたんですが、そこで素晴らしい師と出会いました。
米田 そこで初めて本格的な空手の体験をされて……、世界大会で初めて無差別級の王者になったのは空手を始めてから何年目だったのですか。

ちになった。最初は強さというシンプルな目標だったものが、精神的の高さを求めようというお気持ちになったわけですね。

人生を変えた「15秒の葛藤」

緑 14年目、29歳の時です。
米田 その間は大変な努力をされたんでしょう。
緑 最初の目的は空手のチャンピオンになりたいとかじゃなくて、単に喧嘩に強くなりたいうことでした。私は体が小さかったので、大きな人間に負けたくないという思いがあつて。空手を

米田 そして5回目の世界大会を最後に引退された。無差別級の王者になられた大会が最後ですね。まだ29歳の時。そんなに早く辞めるものなんですか。
緑 そうですね、僕らの時代に30歳を過ぎた現役という方は少ない



かないんですよ。世界で一番練習するという気持ちでやっています。
第5回世界大会の準々決勝で、大型の強豪日本人選手と闘って、もう駄目だという自分と、もう一つここで頑張れという自分がいて、ほんの15秒ほどの葛藤があつたんです。その葛藤の中でもう一度自分を奮い立たせて、乗り越えることができた。やっと諦めない心をつかめた気がして、そこから準決勝、決勝は自分を信じて戦うことができました。

ていけるといふ気持ちで生活しています。生徒にもいつも絶対諦めるなと話しています。投げなければ、いつか必ずチャンスは来るんだ、と。
ブルコンタクトへのこだわり
米田 その後、後進を育てようと、極真会館を大組織に育てられたわけですね。
緑 2000年にNPO法人極真会館の代表になり、2003年に「新極真会」に刷新して(正式名称「NPO法人全世界空手道連盟新極真会、略称・WKO」、道着もマークも一新したのですが、世界中の仲間も賛同してくれました。それはすごく友情を感じました。
米田 ところで私たち門外漢にとってピンとこないのは、「ブルコンタクト」の空手と、その他の空手の流派とは何が違うんですか。
緑 2020年東京オリンピックに採用された空手は「ノンコンタクト」で、防具を付けたポイント制の空手、強く当てたら反則というルールです。大山総裁は、当てなければ空手ではないという信念で極真空手をつくった。それが一気に広まっていった、ブルコンタクト(当てる)と、ノンコンタク

ト(当てない)とが世界を二分しているのが今の状況です。
米田 これは素人の愚問ですが、ノンコンタクトの特徴は何でしょうか。
緑 ノンコンタクトでは、技の正確性を重視するあまり、戦いに格闘技的なハードさというのはそんなにないでしょうね。
米田 実際に空手で他者と格闘する場面なんてあまりないでしょうし、ない方がいいですが、伝統派の寸止めの空手というのは素人から見れば、本来の有効性が分かりにくいのではないのでしょうか。空手で自分の身を守らなければならぬ場面になって、初めて有効かどうか分かるような気がするのですが……。実際は通用しないかもしれない。
緑 確かに本当に当てないと分からない。実際に大事な人を守る時に、それで守れるかどうかは、やってみないと分かりません。
米田 何でオリンピックは寸止めになつちやつたんだろう。危ないからつてことですか。でも格闘技ですし、柔道だつてたまには怪我するわけですから。
緑 フルコンタクトの試合でアバラ骨が折れたり、足の骨が折れた

米田 外から見ていると天才的な空手家だと思っていました。が、そういう苦しみがあつたんですね。
緑 その15秒を境に、諦めない、投げないという気持ちが自分の宝になりました。その後、組織での活動においても色々なことがあつたんですけれど、前向きに乗り越え

た。それが一気に広まっていった、ブルコンタクト(当てる)と、ノンコンタク

りということはたまにはありま

す。でも素人ならともかく、みんな普段から鍛えていますので、打たれ強くなっているんです。
米田 基礎的なトレーニングをちゃんとやっていけば、フルコンタクトは「大怪我という、素人が考えるような話じゃないわけですね。」
**「いじめ」が蔓延する教育現場
 空手の理念がそれを解消する**
米田 フルコンタクト空手の理念として、「心極める」という言葉を挙げていますね。
 試合でも練習でも、心が強く



じめられる側を同列に置いて、いじめられる子は可哀そう、でもいじめられる側にも理由があるみたいなことをいつてうやむやにしてしまおう。どうやっていじめをなくすかという前に、まずいじめの側にいじめちゃいかんのだぞと明確に言わないとダメでしょう。いじめというのは犯罪なんですから。
緑 それで命を落とす子たちもいますからね。
米田 小中学校に治外法権があるわけじゃないし、教育の現場がいじめをなくす能力がなければ、それこそ警察官の常駐でも考えるし

ないと苦しい場面を乗り越えていけないですし、心を極めていかないと最後は諦めてしまう。それと世界チャンピオンになるレベルの人たちは「心がきれいでなければ試合では勝てない」とよく言うんです。我儘で、自分一人で強くなったという人は勝てないですよ。練習では相手がいて、周りの支えがあるからこそチャンピオンになれる。感謝の気持ちを持っていていくんです。すべてにおいて、いいことも悪いことも心が決めていくと思うんです。

米田 強くなるということと精神性のレベルが高くなっていくということ、それは表裏一体なんです。片方だけじゃ成り立たないと。そういう境地に達せられたからこそ、「新極真会の目標として『青少年の育成』」ということを掲げていらっしゃると思うのですが、少年少女の会員も増えているようですね。
緑 増えていきます。親御さんが連れてきて、礼儀・礼節を教えたいというのもあるでしょうし、我が子はいじめられてほしくないですよ。逆にやんちゃ坊主が入会してきたら、自分の弱さを知るんです。本当にいじめをしなくなるんです。
米田 弱い子は強くなっていく

かないじゃないですか。そうしないと永遠にいじめは続きますよ。

空手を通して子どもが国際人に

米田 私は緑代表とお会いしていいと思ったのは、やはり子どもに強い気持ちや自信を持たせる点です。いじめられる子は当然暴力への恐れを持っているでしょう。しかも大勢の相手から。そこで空手を習って心身を鍛えれば、自信を持てる。

緑 団体でいじめられる子たちこそ気が弱いし、卑怯者で、相手が強くなったら、一人じゃ何もできない子たちなんです。だからこちらが強くなっていけばいいんです。
米田 それといじめは物理的な危害を加えられる怖さと同時に、孤独感というのがあると思うんですね。つまはじきにされて。でも道場で修行したら、孤独な時があってもくじけないでしょうね。

緑 くじけないですね。それと今、国際交流に力を入れている中で、海外の子どもたちと国際大会をやるんですね。すると日本の子たちと海外の子たちが友達になるんです。空手を通して国際人になっていくんです。そして私たちはただ空手をやるだけじゃなく、



道場に通う少年少女たち

し、ハネてる子に対してはもっと強いのがいっぱいいるぞと、ちょっといい具合にいくわけですね。
緑 ええ、強いのがいっぱいいるので、謙虚になっていきます。空手をやって、審査を受けたり試合に出るのは、子どもにとって本当に怖いことです。でもそれを乗り越えていった子たちは、すごく凛として絶対に人をいじめたりしない。いじめられっ子がいたら守つ

ております。
米田 当協会の鈴木丈真代表理事も長い間お付き合いをいただいて、以前も東ティモールに同行させていたようにですが(2016年7月、WKOの支部道場設立のため)、まず国際貢献という意味では、やはり武道の教育を広めていくということなんです。
緑 東ティモールは治安が悪い。そして子どもたちへの教育の中に武道のようなものはありません。何も無いところで今後空手を導入して、道徳や空手の精神を東ティモールの子どもたちに教えていく。それも一つの国際貢献だと思います。

米田 新しい国だけに、その国民



稽古にも熱が入る



総本部道場(東京都新宿区)

てやる。空手をやる子は学校でもリーダーシップを取るようになっていくんです。
米田 私もかつて国会議員を務めた者として、この国の教育の行く末を案じている一人です。しかし昨今の報道を見ると、いじめが収まるどころか増えているようです。今の教育の世界はおかしいところがある。教育評論家みたいな人たちが、いじめる側とい

を育成していく伝統的な精神的支柱として新極真会の精神と体躯の育成を導入していくことですね。
緑 東ティモールに支部が開けたら95カ国目、目標は100カ国なんです。

米田 当協会も大いに協力申し上げたい。これからもよろしくお願ひします。
 —この記事は、平成29年4月12日に行われた対談をまとめたものです。

Vol.23 対談者 PROFILE



NPO法人
 全世界空手連盟
 新極真会代表理事
緑健児
 ミドリケンジ



公益社団法人 国際経済交流協会
 会長 **米田建三**
 ヨネダケンゾウ
 1947年長野県生まれ。県立松本深志高校卒業、横浜市政会議員に当選し、93年に衆議院議員に初当選。以降3期連続当選。北海道開発総務次官、防衛庁政務官などを歴任し、小泉内閣では、内閣府副大臣を務めた。帝京平成大学教授を歴任後、10年5月に国際経済交流協会代表理事に就任。15年2月に同協会会長に就任。TV・雑誌等メディアでも活躍している。

Navi 特別インタビュー

駐日ハンガリー大使
パラノビチ・ノルバート

新・駐日ハンガリー大使は有能なビジネスマン ——日本との更なる協力関係を構築したい

ビジネスマンとして経験した
日本市場の「特殊性」

——2016年12月に大使に就任されました。それまでのキャリアについて教えてください。

大使 2002年に故郷のペーチュ大学から、関西外国語大学の留学生として初めて来日しました。そのころアジアについて何も知らなかったのですが、アジアを学びたいと思ったのです。日本についても正直、サムライやハイテク商品についてのイメージがいろいろありませんでした。

その後一度日本を離れて、2004年に名古屋大学に留学、国際関係論を学びました。博士号を取得し名大の客員教授を務め、結局名古屋には10年住んでいました。

名大在学時代からビジネスマンとして活躍されていたようですが…。

大使 当初はハンガリーの新聞と雑誌の日本特派員の仕事をやっていました。私の大学での博士論文のテーマは日本外交でしたので、それはジャーナリストとしての仕事にも役立ちました。そして2008年にハンガリーの大手食品メーカー、ピック・セゲド社の東京事務所を立ち上げたんです。

その仕事と同時並行で東欧から日本に進出する企業をサポートするエンピ株式会社も設立しました。

日本で商談相手との信頼関係を築くまでには時間がかかりました。我慢が必要です。ただ信頼関係ができた後は、ことがスムーズに運びます。始まりは早いけれど後で問題が発生する海外のビジネスとは、事情が異なります。そういった事情を、日本に進出したいハンガリーの企業に伝えるのも、大使としての私の仕事です。

以前はピック・セゲド社の代表としてFOODEX JAPAN（毎年、幕張メッセで行われる国際食品・飲料展）に参加していましたが、先の3月の同展示会には大使として訪問しました。ピックだけではなく、出展した19社のサポートをしないといけないなかった。まだ日本の市場に輸出していない企業に、どう私の経験を伝えられるかを考えながら活動しました。

“コストパフォーマンス”が高いハンガリーの魅力

大使から見て、今の日本の現状をどう捉えていますか。

大使 生活・教育のレベルが高く、非常にいい国だと思います。

日本とV4の協力関係強化を

——ハンガリーはV4（ハンガリー、チェコ、スロバキア、ポーランドの地域協力機構）の提唱国です。日本とハンガリーとV4、今後どう関係を強化していきたいですか。

大使 V4を設立した（1991年）ことよって、EUの中で4カ国の声は影響力を増しています。私たちは順調に経済成長を続けていますし、4カ国合わせればかなりの人口になります。だから日本がV4と話す意味は絶対にあると思います。これまで日本とV4とのサミットは1回しか行われていないので、ハンガリーが議長国である間にぜひサミットを行ってほしいんです（ハンガリーは2017年7月、2018年6月までV4議長国）。1990年に初めて日本の首相として海部俊樹総理がハンガリーをご訪問されました。もし今ハンガリーに安倍総理や政府要人の方に訪問していただければ、お見せできるものはたくさんあるでしょう。ハンガ



特に15年前に比べるとワークライフバランスが良くなってきました。少子高齢化の問題は解決しなければならぬでしょうが、住みやすくいい国です。

現在の安倍政権は政治でも経済でもとてもいいコンセプトを持っている、非常にうまく国を動かしていると思います。

現在ハンガリーの高等教育機関で400人以上の日本人が学んでいると聞いております。

大使 間違いなく留学生は増えていきますね。ハンガリーは教育のレベルが高い割に、比較的学費が安い。学費だけではなく、生活や食についてもコストパフォーマンスが高いんです。そしてこれは観光客へのアピールにもなりますが、非常に治安がいい。首都ブダペストは200万人以上の人口がある

リーだけでなく日本にとっても非常にメリットがあると思います。——今後日本との関係にはどんなことを期待していますか。

大使 もっと貿易の協力関係を密にしていきたい。国際経済交流協会からも貿易のサポートを期待しています。それに関していろいろなイベントも考えています。ハンガリーから日本向けの輸出も、日本からハンガリー向けの輸出も、まだまだチャンスはいっぱい残っていると思います。共同でうまく考えながら、チャンスをつかんでいきたいですね。（本誌取材班）



街なのに安全です。女性が一人で夜中に出歩いても、全然問題はなはずです。——特にハンガリーの大学の、医学部への留学生が多いですね。大使 300人以上の日本人の学生が、6年間のフルコースで学んでいます。ハンガリーで医者になる格を取ればEU全体で通用するし、日本に帰っても国家試験を受ければ一般の医者になれます。

レベルが高い、サービスが良い割にコストが安いというのは、教育や観光客に関してだけではなく、貿易に関してもいえることです。現在ハンガリーに日本企業151社が進出していて、そのうち約50社が工場を持っています。労働者の賃金は世界的に比較してまだまだ高くないですし、これも労働者や環境のクオリティとのバランスを見た上で、コストパフォーマンスが高いといえます。——企業の海外進出先として、他にどんなメリットがあるでしょうか。大使 地理的にヨーロッパの真ん中にあることもメリットの一つです。ハンガリーはオープンエコノミーというコンセプトを持っていて、海外の企業の誘致活動を積極的にを行っています。今年、法人税を9%まで下げましたので、投資先としてはかなり魅力的だと思います。それと8年ほど前からインフラの開発を重点的に行って、鉄道をはじめとする交通網が充実し、国内の移動時間は相当短くなりました。ブダペストからは、どこに行くにしてもほぼ3時間半以内で行けるようになりました。これまで日本からは自動車関連の企業の進出が多かったんですが、もう少し企業進出の分野を広

PROFILE

駐日ハンガリー大使
パラノビチ・ノルバート

1978年生まれ。故郷のペーチュ大学で経済学を専攻した後、2002年に初来日し、関西外国語大学に1年間留学。2004年に再来日、名古屋大学に留学、博士号を取得。在学中、ハンガリーの新聞とビジネス誌の日本特派員として活躍。2008年にハンガリー最大の食肉加工メーカー、ピック・セゲド社の東京事務所を立ち上げ、自らが代表として活躍。2016年、駐日ハンガリー大使に就任。



核武装をめぐる北朝鮮と「文革中国」

寸鉄

だから言ったじゃないか！
北朝鮮危機に見る日本の情けない立場

米田建三

北朝鮮が米領土攻撃の能力を持ちそうになって、トランプ政権は軍事力の行使をためらわない姿勢を見せ、北朝鮮を巡る有事勃発の危機がにわかを高まった。この事態になって、あらためて「米領土に命預けます」という日本の安全保障体制の脆弱性が明らかにされた。

私は、10年ほど前に産経新聞社の月刊誌『正論』に、しばしば安全保障に関する論文を寄稿した。あらためて読んでみて、驚いた。10年前に指摘した我が国安体制の脆弱性はまったく変わっていないではないか。

●米領土攻撃の核ミサイル開発の情報を熟知しながら、融和策を取ってきた。自国に直接の脅威が及ぶまで、腰を上げない。

●それは日本にとってはまことに都合なことである。米中露朝（韓国に左派政権ができれば「統一朝鮮」という核保有国に囲まれ、最も相手を抑止する力が弱い国として、諸外国の理不尽な要求を飲まされ続けるであろう。●（今回、たまたま米領土は強気だが）そもそも日米安全保障条約に米国の自

動参戦義務はない。日本のためにいつ？どのくらいいのレベルで戦うかは、あくまでも米領土の国益によって判断される。他国との同盟の宿命である。

●ミサイル防衛システムは気休め。命中率は100%ではないし、一斉に多数撃たれたら対応できない。

●やはり、自前の打撃力（＝抑止力）が必要だ。

その後、安保法制の整備などの進展はあったが、本質的な改善は行われていない。

有事になってもならなくても、米中の裏談合で北東アジアの今後の構図が決められるだろう。日本にとっては深刻な状況だ——米中は協調して北朝鮮の体制を変革し、管理責任は中国が負い、少なくとも米領土への脅威にならない存在にする。米領土は、左派政権誕生必至の韓国を含めた朝鮮半島全体を、中国の覇権の傘下とすることを容認する。中国は経済関係において、米国の要求に対して大幅に譲歩する。米領土は中国の劣に報いて、日本の領土や資源の強奪を一部容認する——こんな悪夢が実現するかもしれない。

自主防衛態勢の強化とともに、外交戦にも首を突っ込んで、日本の国益を守る時だ。

興味深い新聞のスクラップ記事を見つけたので紹介します。今では新聞が使わない用語もありますが、時代の雰囲気を知るためそのまま記します。

「中共、核ミサイル実験に成功 北京放送 正確に目標へ誘導」

「解説 意外に早い小型化」

「実戦段階」にはいる 米の見方

日本などへの影響重視

「危険な実験に強く抗議 外務省の非公式見解」

これらは、およそ半世紀前の産経新聞昭和41年（1966年）10月28日付朝刊1面の記事の見出しです。「中共」とは、中国共産党が支配する中華人民共和国を指しています。

それによると、中国政府は北京放送を通じて「自国の国土において誘導ミサイル核兵器の実験に成功した。誘導ミサイルの飛行は正常であった。核弾頭は予定の距離で正確に目標に命中し、核爆発を実現した。今回の実験の成功はわが国の科学技術と国防力が毛沢東思想の輝かしい光りを浴びて、さらに早いテンポで発展したことを示している」と宣伝しました。

また、「中国における核兵器の開発は、ほかでもなく米ソの結託による核独占と核脅迫に反対するためである。中国人民が誘導ミサイルと核兵器をにぎったことは、抗米救国戦争を行なっ

ている英雄的なベトナム人民、いま勇敢な闘争を行なっている全世界の革命人民に対する巨大な励ましであり、世界平和の擁護にとつての新しい貢献である」などと主張し、核武装を正当化しています。

これに対し、産経新聞は解説記事で「1964年10月16日、第一回の核実験を行なつていらいわずか三回の核実験の後で誘導ミサイルによる核実験を行なつたことは、中共の科学技術水準が予想以上にきわめて高いことを示す。（略）安保体制下にある日本の防衛問題にも大きな反響をまき起こすことになる」と記しました。

ワシントン電は「こんどの実験は核弾頭を積載したミサイルであるとすれば中共の核戦力がいよいよ実戦段階にはいり、少なくとも中共周辺国に対しての軍事脅威を与える段階にはいつたことになる」と報じました。

同じ日の産経新聞朝刊の社会面は「中共の核ミサイル実験をこう思う」と題し、識者らの談話を載せました。それぞれの見出しを示します。

「一番恐れていた現実 まるで気違いに刃物だ」（立教大学総長 松下正寿氏）

「意外なほど急テンポな開発」（防衛庁防衛局長 島田豊氏）

「信じられない発表」（軍事評論家 小谷秀二郎氏）

江戶のあれこれ

江戸散策家：高橋達郎

なぜ長野は教育県なのか

初対面の人たちの会話で、そのなかの一人が長野県出身だと知ると、必ず誰かから「教育県ですね」という言葉が出てくる。関東出身にあるのか、何か理由があるだろうと思いついてみた。

江戸時代、庶民の初等教育を担ったのは「寺子屋」である。『日本庶民教育史（石川謙著／昭和4年刊）』は、当時の文部省調査（明治16年頃）を掲載している。調査府県三府三十七県の総寺子屋数は16560、寺子屋数がもつとも多い県は信濃（長野県）の1344だった。武蔵でさえ880にすぎない。



1000を超えているのは他に現在の山口県、岡山県などである。江戸後期から幕末にかけて「寺子屋」が教育機関として全国的に成立。当時は文武を学ぶ武家の教育機関である「藩校」に対して、読み書きを中心に日常生活に必要な教養を学ぶ「寺子屋」が並立していた。他にも「私塾」や「郷校

『御手本』安政2年（1855）

（藩主の監督・保護下にあった庶民の学校）もあり、乱立状態のまま、教育機関の枠組みがされる明治5年の「学制頒布」まで続くのである。

日本の識字率は江戸時代、世界のトップクラスだった、とよくいわれる。庶民の「寺子屋」が果たした役割は大きい。開国、明治維新と社会が激変するなか、日本は当時もつとも教育熱心な国だったのではないかと思う。長野県のような山国・山間部まで初等教育機関が多数存在した。

長野県の寺子屋の特徴は、師匠の半数以上が百姓であったこと。それ自体驚きである。通常は僧侶、医者、神主といったところだろう。学習熱心な県民性によるものか、風土というべきか、教育環境の素地がすでにあつたのだ。

現在も教育県と呼ぶにふさわしいデータがある。長野県諏訪郡富士見町図書館の人口一人当たりの貸出件数は同規模自治体のなかで全国一位（日本図書館協会調査・2010年度）。また、人口10万人当たりの美術館数、博物館数はともに全国一位（文部科学省社会教育調査・2008年度）である。

「危険きわまる中共の将来」（京大教授 猪木正道氏）

島田防衛局長は「航空機からの空中投下による核爆弾の開発は予想していたが、ミサイルを使って核を爆発させることは予想していなかった」と不意打ちを食らったことを認めています。それにしても、「中共」を今の「北朝鮮」に入れ替えてもあまり違和感がありません。

当時の中国は、毛沢東による文化大革命の真っ最中で、今の北朝鮮のような危ない国だとみられていました。ただ、昭和41年当時、中国の核ミサイルは初期の段階のもので、米本土へ届く大陸間弾道弾（ICBM）の開発はまだ先だとみられていました。

一方、現代の北朝鮮はICBMの完成こそまだですが、ICBM用の高出力エンジンの「地上燃焼実験」を公表し、完成間近だと宣伝しています。北朝鮮は、日本攻撃用弾道ミサイルのノドン、スカッドERはすでに保有しています。

中国の核戦力は、実は日本にとって大きな脅威なのですが、それに北朝鮮が加わりうとしています。

中国の核武装を米領土をはじめとする国際社会は容認してしまいました。北朝鮮をめぐる、歴史が繰り返されてはまったものではありません。

産経新聞社論説委員 榊原 智

直言

仕事柄、海外の方と接することが少なくありませんが、そんなとき「郷に入れば郷に従え」という諺を思い出します。そこに実に日本らしい柔軟さを感じます。

その土地、その集まりに行ったら、そのコミュニティの習慣ややり方に従うのが賢い生き方という意味で、「そのコミュニティの習慣ややり方」は「文化」と言い換えることができます。

これは他文化への順応を示唆しています。しかも日本では行っただけでなく、日本自体が巧みに他文化を取り入れています。それでいて日本らしさを失わないたかさがあります。

他文化を認め、尊重する寛容さは強さであり、相互理解の第一歩でもあります。そして良いところを取り入れることはさらなる発展につながります。自分のルールに固執しない、この柔軟さのなかにビジネスやプライベートでの成功や幸せが眠っているかもしれません。



公益社団法人 国際経済交流協会 代表理事 鈴木 丈真